

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K03277

研究課題名（和文）ジャカルタにおけるバリ芸能の民族誌 宗教間・民族間の交渉と相互理解を焦点に

研究課題名（英文）Ethnographic study on Balinese performing arts in Jakarta

研究代表者

吉田 ゆか子 (Yoshida, Yukako)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：00700931

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はジャカルタ首都圏（以下ジャカルタ）において、宗教的少数派であるバリ人のコミュニティが、特に舞踊を通じて、非バリ系住民（主にムスリム）との交流・相互理解・交渉を行っている様子を明らかにした。最初のバリ舞踊団体は在ジャカルタのバリ人同士の交流のために作られた。しかしムスリムやクリスチアンの芸能愛好者も増え、今ではそういった非バリ系住民が教える側にまわることもある。本研究では、こうした多宗教的状况や都市という環境をに適應して、ジャカルタのバリ芸能がその衣装や振付の点でユニークな変化をしていることや、こうした非バリ系住民の舞踊上演がヒンドゥ教の儀礼の重要な一部を担っていることも明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまでほとんど学術的に明らかにされていなかった、ジャカルタにおけるバリ人コミュニティのバリ芸能実践、およびそこにおける非バリ系住民たちの参加の実態を明らかにした。また宗教的マイノリティであるバリ・ヒンドゥ教徒たちが芸能実践を通じて、他宗教の人々と交流し、交渉する姿や、ムスリムたちが芸能を通じてヒンドゥ教徒たちへの理解を深めてゆく様子を具体的な事例によって明らかにした点も大きな貢献である。これは現代インドネシアにおける「宗教的寛容さの実現」に対して芸能が重要な役割を果たしていることを示しており、宗教間の対立や文化的差異による軋轢といった現代的課題を考える上での重要な資料を提供する。

研究成果の概要（英文）：This study revealed how the Balinese religious minority community in the Jakarta metropolitan area (hereafter "Jakarta") interacts, understands, and negotiates with non-Balinese residents (mainly Muslims), especially through dance. The first Balinese dance group was created for exchange among Balinese in Jakarta. However, the number of Muslim and Christian dance enthusiasts has increased, and now these non-Balinese people are sometimes involved in teaching. This study also revealed that Balinese performing arts in Jakarta have undergone unique changes in terms of costume and choreography to adapt to this multi-religious situation and urban environment, and that dance performances by non-Balinese people are an important part of Hindu rituals.

研究分野：文化人類学

キーワード：マイノリティ 都市 バリ舞踊 ジャカルタ バリ芸能 イスラーム 宗教的寛容 バリ・ヒンドゥ

## 1. 研究開始当初の背景

インドネシアには豊かな芸能文化が存在し、特にバリ、ジャワ、スダ等々の芸能については、多くの研究蓄積がある。しかし、それらの研究の多くは例えばバリ芸能はバリ島内でバリ人が行う上演、そしてジャワ芸能についてはジャワ地方におけるジャワ人による上演を対象としている。外国で実践されるバリ芸能やジャワ芸能に関する研究はいくつかあるが、インドネシア国内での、地域を越え、民族や宗教を超えた芸能実践はほとんど注目されてこなかった。これは、例えばバリ人によるバリにおいて実践されるバリ芸能こそが真正なもので、記録や分析に値する、とみなしがちな研究者側の傾向に起因するのではないか。

現代インドネシアでは、人口の移動も多く、芸能は元々の地域のみならず、その外でも頻繁に実践される。バリ島を離れ新たな土地で、民族的、宗教的なマイノリティの立場に置かれたバリ人たちが、どのように自らの芸能や宗教活動を展開してきたのかについては、未だ明らかになっていない。また首都ジャカルタでは、例えばバリ人がジャワ舞踊を踊り、プタウィ人がバリ舞踊を踊るといったような、出身民族にとらわれない芸能活動が盛んに行われている。そこでは、ある程度地域的、民族的に限定された伝承コミュニティを想定するような、従来の研究枠組みでは捉えきれない、ダイナミックな芸能実践の場が生じている。本研究はこれらの点に注目し、新たなインドネシア芸能研究の視座を開くものである。

## 2. 研究の目的

本研究はインドネシアの首都ジャカルタにおいて実践されているバリ芸能に注目する。本来バリ・ヒンドゥ教やその儀礼と深く結びついていたバリ芸能は、この多民族都市において現在バリ人以外の人々にも広く学ばれ、上演される。他方、ムスリムが大多数を占めるジャカルタにおいて宗教的少数派であるバリ系住民は、こういった異教徒かつ他民族の芸能愛好家と部分的に協働しながら、自らの芸能を伝承し、儀礼活動を維持してきたようだ。本研究は、芸能を、多様な民族的・宗教的背景を持つ人々が身体を用いて関わり合いあうダイナミックな場ととらえ、その中で互いの身体観や芸能観がどのように交渉されるのか、そして芸能の内容や伝承法はどのように変化してきたのかを、歴史的経緯も視野にいれながら考察する。

## 3. 研究の方法

本研究では現地に渡航し、ジャカルタにおけるバリ人コミュニティの儀礼および芸能活動や、バリ民族出身者以外の者たちも多く集う芸能教室、芸能団の活動について、観察、参与観察、インタビューを中心とした人類学的調査を行う。また本研究は、バリ芸能の受容について歴史的な変化も明らかにするが、その課題については、1960年代からジャカルタ活動している主要な芸能家たちのライフヒストリーを軸に、データを収集してゆく。

加えて本研究では、ジャカルタの事例を、バリ芸能のインドネシアにおける展開というより大きな枠組みのなかに位置付けるために、バリ島や、バリ島以外のインドネシアの地域の状況についても調査し、比較分析する。なお、現地調査と並行して、文献調査、現地のメディア報道の内容の分析も行う。

#### 4. 研究成果

本研究ではジャカルタ首都圏(JABODETABEK 以下ジャカルタと表記)における宗教的少数派であるバリ人の宗教・芸能活動および、それらを通じた非バリ人との交流・相互理解・交渉に着目してきた。1960年代、ジャカルタに一番はじめにバリ芸能のグループが結成された際、それは、現地のバリ人たちの交流のためのものであった。宗教的文化的マイノリティである彼らの活動や彼らが奏でる音は、不穏なものとして、嫌がらせを受けたりと、時に排除の対象になったこともあった。しかし次第にバリ人ではない住民たちもこれに参加するようになり、現地ではバリ芸能は、見栄えの良い「国民文化」の一要素として一定の価値を見出され、特に舞踊は子女の習い事として、非バリ系の住民(主にムスリム)にも広く学ばれている。こうしたバリ芸能の状況を追った本研究の成果として主に以下の4つを挙げることができる。

##### (A) 芸能と場の関係に関する考察 - ヒンドゥ寺院における多文化/他宗教的状况とそれらのバリ芸能やヒンドゥ儀礼への影響

個人宅や企業や役場、学校、寺院、コミュニティホールなど様々な場で芸能や儀礼が実践されているバリ島の場合とは異なり、ジャカルタでは人々のヒンドゥ教徒としての活動の多くは、寺院内に集約されていることがわかった。そこでジャカルタ郊外のある寺院を拠点としながら、その寺院で行われている宗教学校、ヒンドゥ・コミュニティの会議、舞踊レッスン、ガムランレッスン、寺院祭(odalan)、結婚披露宴、大晦日の浄化儀礼(ngerupuk)、独立記念日の祝祭、そして日々の祈りなどを観察(時に参与観察)した。特筆すべきは、寺院祭などの年中行事において、特に芸能上演の部分で非バリ系の住民の参加がみられるという点である。儀礼は彼らにとって、日ごろの練習の成果を発揮する晴れ舞台であるが、こうした異教徒たちの活動は、ヒンドゥ教徒たちだけでは実現できないような華やかさや賑わいを生み出し、ヒンドゥ教儀礼に貢献しているといえる。なお儀礼のなかで神聖な物と位置付けられているルジャン・デワやパリス・グデといった演目は、そこに異教徒たちが加わることに、懸念する者たちもいるが、実際にはインストラクターたちの判断によって、ムスリムやクリスチャンの子供たちが参加するケースもしばしばみられる。他方、ヒンドゥ教徒自身の芸能実践は、ムスリムたちの礼拝や断食といった宗教活動に影響される部分がある。このように芸能や儀礼は、ジャカルタの都市的・多民族的環境と結びついて、独特の展開を見せている。こうした研究成果は *Movementscape of Hindu Temples in Jakarta* と題し、国際学会にて発表され、プロシーディングスとしても公開された。

なお芸能の場所性を対象とするそうした考察は、芸能が場所を移動してゆく「越境」の問題ともかかわってくる。本研究では、芸能の越境についてバリのガムラン楽器を中心に考察した論考「楽器との出会いとしての音楽の越境：日本のバリ・ガムラン演奏グループを事例に」を、『国立民族学博物館研究報告』46(2)に発表した。これは主に日本でバリ・ガムラン音楽を実践する団体を対象にしているが、本科研プロジェクトが明らかにしたジャカルタにおけるバリ・ガムラン音楽の受容の事例も比較対象として参照した。

##### (B) イスラーム的な身体観とバリの身体観および美学の間の葛藤 - 肌の露出の多い舞台衣装をめぐる議論と実践

ジャカルタにおけるバリ舞踊のユニークな展開の重要な一つとして、舞台衣装の変化や舞台衣装をめぐる議論を取り上げた。ジャカルタにおいて、ヒジャブの着用をはじめとして、ムスリム女性の身体を露出すべきではないという規範は年々強くなっており、肌の露出が多いバリ舞

踊の衣装はこうしたイスラーム的ジェンダー規範に反するものとみなされることがある。調査では、ムスリムの踊り手が衣装に加工を施すなどの工夫も見られ、またそれを許容するバリ人インストラクターの側の葛藤と譲歩があることも明らかになった。

他方、ムスリムの愛好家や踊り手は、日々バリ芸能と親しみ、上演を繰り返す中で、ヒジャブを付けることを控えるなど日々の装いを変化させたり、「バリ芸能家」としてのアイデンティティを育んだりもする。こうした装いや演じることと自己意識の動的な関係について、国際シンポジウム *Performing the Self and Playing with the Otherness* を開催し、他分野の専門家と議論したことは本研究の大きな成果の一つである。

#### (C) 国民文化としてのバリ芸能の展開 - 美しきインドネシアミニチュア公園 (TMII) におけるバリ芸能の普及と活用

スハルト政権時代に、大統領夫人を中心に作られたインドネシア文化のテーマパークにおいて、バリ芸能がどのように活用されているのかを調査しながら、バリ芸能に対する国の文化政策の影響について考察した。TMII では、インドネシアの多様な地域に伝承される多様な芸能が学ばれ上演されていることから、そこで働く舞踊インストラクターやそこで学ぶ生徒たちは、複数の地域の踊りに通じていることも多く、バリ芸能を多様な国内の舞踊と比較する視点も有している傾向がある。そのようななか、バリ芸能が特に人気の舞踊ジャンルでありここでも多くのイスラームの生徒を集めていることや、バリ舞踊が相対的に技巧的であり、ゆえに他の舞踊を学ぶ上での訓練としての位置づけも有していることが明らかになった。先行研究において TMII は国家にとって都合の良い国のイメージを伝えるために文化を表象する装置として分析されることが多かった。実際調査でも地域の各種の芸能を並べることで、国の文化的多様性や豊かさを称えるような上演やイベントが多く実施されていることが明らかになった。しかし日々そこで舞踊を学んだり教えたりする人々に目を向けると、そこが人々の活動の場であり、多様な芸能ジャンルの知識を持った芸能家が育ち、またそうした人々の間で新たなアイデアや作品が生まれているなど、TMII の活動的で創造的な側面も明らかになった。こうした TMII の様子を、無形文化遺産保護制度の枠組みとの関係から考察した論考 *Who are the Communities Involved in Intangible Cultural Heritage?: A Consideration of the "Beautiful Indonesia Miniature Park" Proposal as Best Practice* を、国際会議で発表し、プロシーディングにも掲載した。

#### (D) メディアを通じた芸能の伝承

またジャカルタのバリ芸能を考える上で、メディアの影響が重要なトピックとして浮かび上がってきた。ジャカルタはバリから物理的に離れているが、その間には人の往来もあり、またインターネットをはじめとする各種メディアによって情報の交流がある。そのため、バリ島の芸能の状況は、ジャカルタにおけるそれと「地続き」であるともいえる。特に近年は、YouTube などの動画サイトを通じて、あるいはオンラインレッスンを通じても、舞踊が学ばれており、こうした伝承チャンネルの多様化は、ジャカルタでのバリ芸能の発展に少なからぬ影響を与えている。

本研究の後半ではルジャンと呼ばれる奉納舞踊の様々なバージョンが次々とバリからジャカルタへと伝わり大流行したそのプロセスを追った。ルジャンは、奉納芸であることから、儀礼の場で上演の機会を得やすい。また振付がシンプルなことから、少しバリ舞踊の素養がある人であれば、ビデオから振付を起こすことも可能である。ルジャンのなかでも特に人気を博したルジャン・レンテンという舞踊の流行のプロセスにおいて、新旧のメディアが果たした役割について指摘した論考「メディアのなかの芸能 / 『メディア』としての芸能：バリ島の奉納舞踊の事例か

ら」を文化人類学の教科書『モノとメディアの人類学』の一部として発表した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 吉田 ゆか子	4. 巻 46
2. 論文標題 楽器との出会いとしての音楽の越境：日本のバリ・ガムラン演奏グループを事例に：<特集：「上演を紡ぐ人とモノ：マテリアリティの人類学と上演芸術の研究の交差点」>	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告 = Bulletin of the National Museum of Ethnology	6. 最初と最後の頁 311～348
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15021/00009854	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yukako Yoshida	4. 巻 5
2. 論文標題 Who are the Communities Involved in Intangible Cultural Heritage?: A Consideration of the "Beautiful Indonesia Miniature Park" Proposal as Best Practice	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 5th Symposium: The ICTM study group on performing arts of Southeast Asia	6. 最初と最後の頁 210-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yukako Yoshida	4. 巻 6
2. 論文標題 Movementscape of Hindu Temples in Jakarta	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of the 6th Symposium: The ICTM study group on performing arts of Southeast Asia	6. 最初と最後の頁 148-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件／うち国際学会 4件）

1. 発表者名 Yukako Yoshida
2. 発表標題 Movementscape of A Hindu Temple in Jakarta
3. 学会等名 The 6th Symposium of the International Council for Traditional Music, Study Group on Performing Arts of Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yoshida Yukako
2. 発表標題 Performing Self, Otherness, or “Ourness”? : Balinese dance and its costumes in Jakarta
3. 学会等名 International Symposium "Performing the Self and Playing with the Otherness: Clothing and Costuming under Transcultural conditions"
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukako Yoshida
2. 発表標題 Inter-religious understanding and adjustment through dance: A study of Muslim learners and Hindu instructors of Balinese dance in Jakarta.
3. 学会等名 Asia Pacific Dance Festival Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yukako Yoshida
2. 発表標題 Who Are the Communities Involved in Intangible Cultural Heritage?: A Consideration of the “Beautiful Indonesia Miniature Park” Proposal as Best Practice.
3. 学会等名 5th symposium of the International Council for Traditional Music, Study Group on Performing Arts of Southeast Asia (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田ゆか子
2. 発表標題 楽器からみる芸能の越境 - 日本のバリ芸能グループを事例に
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yukako Yoshida
2. 発表標題 Laughing at our imperfect body: Representations of physical impairments in the Balinese masked dance-drama topeng
3. 学会等名 The 44rd world conference, International Council for Traditional Music (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Yukako YOSHIDA, Ranny RASTATI, Manami GOTO(eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 46
3. 書名 Proceedings of International Symposium "Performing the Self and Playing with the Otherness: Clothing and Costuming under Transcultural Conditions"	

1. 著者名 藤野陽平・奈良雅史・近藤祉秋 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 280
3. 書名 モノとメディアの人類学	

1. 著者名 信田敏広ほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 794
3. 書名 東南アジア文化事典	



1. 著者名 Hisao, TOMIZAWA, Yumi SUGAHARA, Yasuko KOBAYASHI, Momo SHIOYA, Yukako YOSHIDA, Shamsul A. B., Naoki SODA, Yuji Tsuboi, Nao KANEKO, Jacqueline PUGH-KITINGAN, Nobutaro SUZUKI, Ikuya TOKORO, Keiko KURODA, Ryoko NISHII, Hisao OGAWA, Omar FAROUK	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA), Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 341
3. 書名 Islam and Cultural Diversity in Southeast Asia(Vol.2): Perspectives from Indonesia, Malaysia, the Philippines, Thailand, and Cambodia	

〔産業財産権〕

〔その他〕

プロシーディング"Performing the Self and..." <a href="http://coe.aa.tufs.ac.jp/kikanjinrui/Performing_the_Self_and_Playing_with_the_Otherness.pdf">http://coe.aa.tufs.ac.jp/kikanjinrui/Performing_the_Self_and_Playing_with_the_Otherness.pdf</a> 演じる身体から世界を見るージャカルタのバリ舞踊の民族誌 (ポスター) <a href="http://www.aa.tufs.ac.jp/images/staff/posters/pos19_yoshiday.jpg">http://www.aa.tufs.ac.jp/images/staff/posters/pos19_yoshiday.jpg</a>
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------